

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3094168号
(U3094168)

(45) 発行日 平成15年6月6日 (2003. 6. 6)

(24) 登録日 平成15年3月12日 (2003. 3. 12)

(51) Int.Cl.⁷

識別記号

F I

A 4 1 C 1/00

A 4 1 C 1/00

G

F

A 6 1 F 13/72

1/06

// A 4 1 C 1/06

A 6 1 F 13/16

3 7 0

評価書の請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 12 頁)

(21) 出願番号 実願2002-7362 (U2002-7362)

(22) 出願日 平成14年11月20日 (2002. 11. 20)

(73) 実用新案権者 596156967

樋口 百合子

北海道札幌市中央区宮の森3条13丁目2番
5号

(72) 考案者 樋口 百合子

北海道札幌市中央区宮ノ森3条1丁目2番
5号

(74) 代理人 100060690

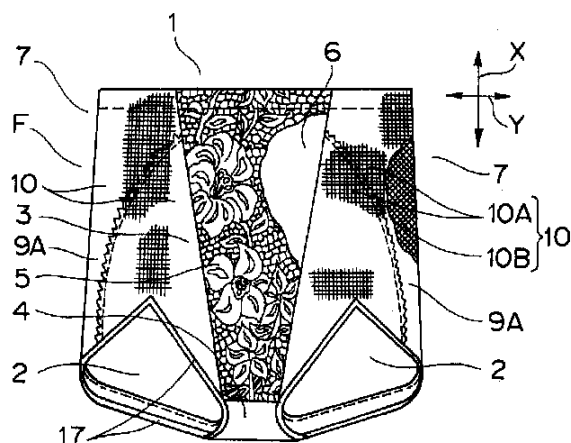
弁理士 瀧野 秀雄 (外3名)

(54) 【考案の名称】 補正下着

(57) 【要約】

【課題】 本考案は補正下着に関し、特にウェスト周りの脇腹に付いた贅肉を引き締めたり、ヒップ・アップをはかるといふ締付力を要する肝心な部所での伸縮性に富み、十分な引締力を発揮し、体形の補正が確実に行え、装着感が良好であり、縫着作業が容易で生産効率が高く、組立費、生産コストが安価になる。

【解決手段】 下着本体が、前身頃Fの略中央に腹部3から股間4に到るまで縦長に配設された不伸縮布6と、脇腹7、7からヒップ部8にわたり配設され、脇腹引締部9Aおよび略U字形のヒップ・アップ部9Bを形成し、縦方向Xに伸縮性を発揮する第1伸縮布素材10A並びに該第1伸縮布素材の編組織または織組織に対し任意傾斜角度 θ にて編組織または織組織が重ね合わされ、その $\sin \theta$ の伸縮力を第1伸縮布素材の伸縮力に付加する第2伸縮布素材10Bよりなり、全体的に縦方向Xの合力として伸縮力を発揮する身丈伸縮形態布10とを備えた。



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 両肢を挿入するレッグ・ホールを下着本体の左右下方に設けて下肢に装用する補正下着において、下着本体が、前身頃の略中央に腹部から股間に到るまで縦長に配設され、表面にはレース地等の表装布が覆われた不伸縮布と、該不伸縮布の左右に脇腹から背部のヒップ部にわたり配設され、略縦状をなす脇腹引締部および背面の全体形状が略U字形のヒップ・アップ部を形成し、且つ縦方向に伸縮性を発揮する第1伸縮布素材並びに該第1伸縮布素材の編組織または織組織に対し任意傾斜角度 θ にて編組織または織組織が重ね合わされることにより、その $\sin \theta$ の伸縮力を前記第1伸縮布素材の伸縮力に付加する第2伸縮布素材よりなるとともに全体的に縦方向の合力として伸縮力を発揮する身丈伸縮形態布とを備えた補正下着。

【請求項2】 身丈伸縮形態布は、第1伸縮布素材の編組織または織組織に対し背面中央線を境に左右に後身頃から前身頃に向かって左上がりまたは右上がりに編組織または織組織を傾斜角度 θ が 30° ～ 60° に配列することにより、その $\sin \theta$ の伸縮力を第1伸縮布素材に付加する第2伸縮布素材を重ね合わせて形成されることを特徴とする請求項1に記載の補正下着。

【請求項3】 下着本体の背部上縁には、身丈伸縮形態布に対して横方向に伸縮可能な2枚の身幅伸縮素布を表裏に重合した身幅伸縮布を配設することを特徴とする請求項1または2に記載の補正下着。

【請求項4】 下着本体の背面中央線上に、ゴム入紐を配設することにより下着本体の後身頃自体が身丈方向に伸縮可能に予めギャザーを形成したことを特徴とする請求項1、2または3に記載の補正下着。

【請求項5】 下着本体が、ガードル、ボディースーツ等

の補正下着、または生理ショーツの何れかであることを特徴とする請求項1、2、3または4に記載の補正下着。

【図面の簡単な説明】

【図1】 図1は補正下着をガードルに適用した本考案の一実施形態を示す一部切欠正面図である。

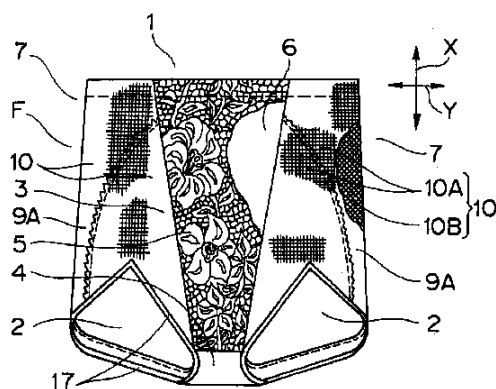
【図2】 図2は同じく一部切欠背面図である。

【図3】 図3は本実施形態を構成する身丈伸縮形態布の組織を説明的に示した拡大正面図である。

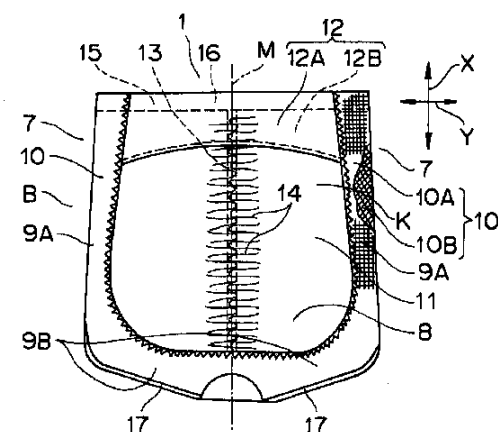
【符号の説明】

- | | |
|----------|----------|
| 1 | ガードル |
| 2 | レッグ・ホール |
| 3 | 腹部 |
| 4 | 股間 |
| 5 | レース地 |
| 6 | 不伸縮布 |
| 7 | 脇腹 |
| 8 | ヒップ部 |
| 9A | 脇腹引締部 |
| 9B | ヒップ・アップ部 |
| 10 | 身丈伸縮形態布 |
| 10A | 第1伸縮布素材 |
| 10B | 第2伸縮布素材 |
| 11 | 伸縮布 |
| 12 | 身幅伸縮布 |
| 12A | 身幅伸縮素布 |
| 12B | 身幅伸縮素布 |
| 13 | ゴム入紐 |
| 14 | ギャザー |
| X | 縦方向 |
| Y | 横方向 |
| θ | 傾斜角度 |

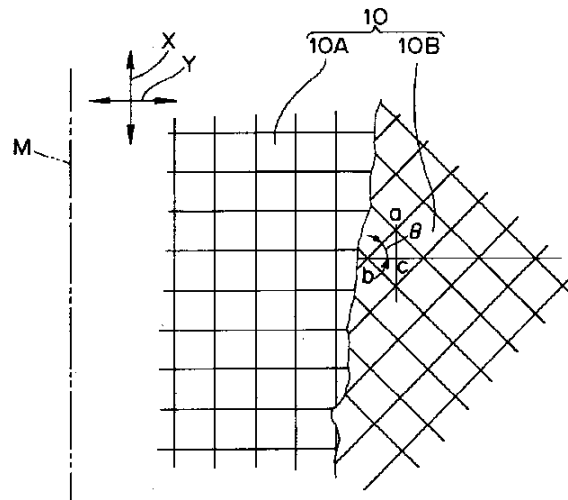
【図1】



【図2】



【図3】



【考案の詳細な説明】

【0001】

【考案の属する技術分野】

本考案は補正下着に関し、例えばガードルまたはボディースーツ等の補正下着に好適に適用でき、特にウェスト周りにおける腹、脇腹に付いた贅肉等の引き締めと、ヒップ・アップに優れ、体形補正が有効かつ確実に行え、また身体への密着性と装着性が良い補正下着に係わる。

【0002】

【従来の技術】

従来、例えば女性が美容上、身体に付いた贅肉を引き締めたり、体形を整えるのに装用する補正下着としては、下肢に装用するガードルがあり、また、下肢、胴部、胸部に装用するようにガードル部、ウェスト・ニッパ部、ブラジャー部を一体に形成したボディースーツ等がある。

【0003】

このガードルは、例えば腹や下腹に付いた贅肉を引き締めるために、従来、前身頃の略中央に不伸縮布を縦に配設することにより腹や下腹に付いた贅肉を引き締め、また、ヒップ・アップをはかるために背面略U字状に裁断した体形補正用の伸縮布を後身頃の臀部に配設して縫着するほか、その他の部分には伸縮布を縫着する等してガードルを形成していた。

【0004】

また、従来、ボディースーツは、下肢、胴部、胸部に装用するガードル部、ウェスト・ニッパ部、ブラジャー部を伸縮布により縫着する等して一体に形成し、そして、前記ウェスト・ニッパ部、ガードル部の前身頃の略中央には縦長の不伸縮布を配設することにより腹、下腹、胃に付いた贅肉を引き締め、しかも、背面略U字状に裁断した体形補正用の伸縮布を前記ガードル部の後身頃の臀部に配設して隣接する各部品の縁部相互を重ね合わしたり、折り返して縫着することにより継ぎ合わせ、しかも縫着後には縁部相互の繊維組織がほつれるのを防止するために補強糸を縁部に絡げる等の縁処理を行う等することによりヒップ・アップをはかるようにするものであった。

【 0 0 0 5 】

【考案が解決しようとする課題】

しかしながら上記従来のガードルやボディースーツは、前身頃の略中央に縦長の不伸縮布を配設することにより、この不伸縮布が使用者の腹、下腹、胃等にあてがわれて腹、下腹、胃についた贅肉を引き締めるようになっている。また、背面略U字状に裁断したヒップ・アップ用の伸縮布をボディースーツまたはボディースーツ部の後身頃の臀部に縫着することによりヒップ・アップをはかるものであり、補正下着が使用者が装用した場合に、下着本体により使用者の身体が全体的に締め付けられることにより補正機能を発揮するものである。例えば、胃に付いた贅肉を主に引き締めることにより体形補正を行ったり、また、主にヒップ・アップをはかって体形補正を行う等の締付力を要する肝心な部所での伸縮力が不足していた。

従って、特に使用者のウェスト周りの脇腹に付いた贅肉を周囲から全体的に腹の中心部に向かって丸め込むように引き締めることにより、ヒップ・アップをはかり、体形を補正するのが不充分であった。また、全体的に身体を引き締めるものである。装用時に窮屈感を伴うものであった。

しかも、ヒップ・アップをはかるには、背面略U字状に裁断した伸縮布を後身頃の臀部に、ガードルやボディースーツを形成するための他のパーツとしての伸縮布と体形補正用の伸縮布との部品相互は、隣接する各部品の縁部相互を重ね合わしたり、相互に折り返して縫ぎ合わせ箇所を縫着することにより縫ぎ合わせ、しかも縫着後には縁部相互の繊維組織がほつれるのを防止するために補強糸を縁部に絡げる等の縁処理を行う等するので、縫着箇所と作業工程が増え、縫着作業に多くの時間および労作がかかり、生産効率が低いものであった。

【 0 0 0 6 】

本考案は上記従来の欠点を解決し、例えば、ウェスト周りの脇腹に付いた贅肉を引き締めたり、また、ヒップ・アップをはかるという締付力を要する肝心な身体部所での伸縮力に富んで十分な引締力を発揮し、体形の補正が確実に行え、また、使用者が装用する時の装着感が良好であり、しかも、縫着作業が容易で生産効率が高く、組立費および生産コストが安価な補正下着を提供しようとする。

【0007】

【考案を解決するための手段】

本考案は上記課題に鑑みなされ、請求項1に記載の考案は、両肢を挿入するレッグ・ホールを下着本体の左右下方に設けて下肢に装用する補正下着において、下着本体が、前身頃の略中央に腹部から股間に到るまで縦長に配設され、表面にはレース地等の表装布が覆われた不伸縮布と、該不伸縮布の左右に脇腹から背部のヒップ部にわたり配設され、略縦状をなす脇腹引締部および背面の全体形状が略U字形のヒップ・アップ部を形成し、且つ縦方向に伸縮性を発揮する第1伸縮布素材並びに該第1伸縮布素材の編組織または織組織に対し任意傾斜角度 θ にて編組織または織組織が重ね合わされることにより、その $\sin \theta$ の伸縮力を第1伸縮布素材の伸縮力に付加する第2伸縮布素材よりなるとともに全体的に縦方向の合力として伸縮力を発揮する身丈伸縮形態布とを備えたという手段を採用した。

【0008】

また、本考案の請求項2に記載の考案は、請求項1において、身丈伸縮形態布は、第1伸縮素材の編組織または織組織に対し背面中央線を境に左右に後身頃から前身頃に向かって左上がりまたは右上がりに編組織または織組織を傾斜角度が $30 \sim 60^\circ$ に配列することにより、その $\sin \theta$ の伸縮力を第1伸縮布素材に付加する第2伸縮布素材を重ね合わせて形成されることを特徴とするという手段を採用した。

【0009】

また、本考案の請求項3に記載の考案は、請求項1または2において、下着本体の背部上縁には、身丈伸縮形態布に対して横方向に伸縮可能な2枚の身幅伸縮素布を表裏に重合した身幅伸縮布を配設することを特徴とするという手段を採用した。

【0010】

また、本考案の請求項4に記載の考案は、請求項1,2または3において、下着本体の背面中央線上に、ゴム入紐を配設することにより下着本体の後身頃自体が身丈方向に伸縮可能に予めギャザーを形成したことを特徴とするという手段を

採用した。

【 0 0 1 1 】

また、本考案の請求項 5 に記載の考案は、請求項 1, 2, 3 または 4 において、下着本体が、ガードル、ボディースーツ等の補正下着、下着、または生理ショーツの何れかであることを特徴とするという手段を採用した。

【 0 0 1 2 】

【考案の実施の形態】

以下図面に従って本考案の実施の形態の具体例を説明する。

図 1 は補正下着をガードルに適用した本考案の一実施形態を示す一部切欠正面図、図 2 は同じく一部切欠背面図、図 3 は本実施形態を構成する身丈伸縮形態布の組織を説明的に示した拡大正面図である。

【 0 0 1 3 】

1 は下着本体としてのガードルであり、このガードル 1 は下肢に装用し、両肢を挿入するレッグ・ホール 2, 2 を左右下方に設けている。

また、ガードル 1 は、前身頃 F の略中央に腹部 3 から股間 4 に到るまで縦長に配設され、表面にはレース地 5 等の表装布が覆われた不伸縮布 6 と、該不伸縮布 6 の左右の表面とともに脇腹 7, 7 から背部のヒップ部 8 にわたり連続して配設され、略縦状をなす脇腹引締部 9 A および背面の全体形状が略 U 字形のヒップ・アップ部 9 B を形成し、且つ縦方向 X に伸縮性を発揮する第 1 伸縮布素材 1 0 A 並びに該第 1 伸縮布素材 1 0 A の編組織または織組織に対し任意角度 θ にて編組織または織組織が重ね合わされる第 2 伸縮布素材 1 0 B よりなる身丈伸縮形態布 1 0 と、該身丈伸縮形態布 1 0 の内域に包囲される背部空間部 K の内域に配設され、横方向 Y に伸縮力を発揮させる伸縮布 1 1 とを備えている。

【 0 0 1 4 】

また、前記身丈伸縮形態布 1 0 は、第 1 伸縮布素材 1 0 A の編組織または織組織に対し第 2 伸縮布素材 1 0 B の編組織または織組織は、図 2, 図 3 に示すように背面中央線 M を境に左右には後身頃 B から前身頃 F に向かって左上がりまたは右上がりに編組織または織組織の傾斜角度 θ が、 $30 \sim 60^\circ$ 、例えば図 3 に示すように本実施形態では好適には 45° であり、図 3 に示す三角形 a, b, c に

いて、その $\sin \theta$ の伸縮力を第 1 伸縮布素材 10A に付加することにより、全体的に縦方向 X の合力として伸縮力が発揮される。なお、図 3 では便宜的に第 1 伸縮布素材 10A の編組織または織組織に対し背面中央線 M を境に第 2 伸縮布素材 10B の編組織または織組織が右上がりの傾斜角度 θ のもののみが示され、左上がりの傾斜角度 θ のものは省略されているが、これは便宜上の表示にすぎない。

また、身丈伸縮形態布 10 としては、例えばポリウレタン繊維等の伸縮性を有する糸やゴム入紐等が編成されたり、織成されたパワーネット等の布帛が使用される。

また、身丈伸縮形態布 10 は、前述のように不伸縮布 6 の左右に表面とともに脇腹 7, 7 から背部のヒップ部 8 にわたり連続して配設される第 1 伸縮布素材 10A の裏面に第 2 伸縮布素材 10B を重ね合わせて縫着することにより裏うちされるので、従来のように例えばヒップ・アップをはかるために背面略 U 字状に裁断した体形補正用の伸縮布を他のパーツとしての伸縮布や不伸縮布に対し隣接する各部品の縁部相互を重ね合わせたり、相互に折り返して継ぎ合わせ個所を縫着することにより隣接して継ぎ合わす必要がなくなるため、縫着個所と作業工程が増えることなく、縫着作業に多くの時間および労作がかからず、ガードル 1 を製作するための生産効率は高くなる。

【0015】

また、下着本体のガードル 1 の背部上縁には、身丈伸縮形態布 10 に対して横方向 Y に伸縮可能な 2 枚の身幅伸縮素布 12A, 12B を表裏に重合した身幅伸縮布 12 を配設することにより使用者のウェストが太いか細いかのサイズに適合してガードル 1 は身幅方向に伸縮可能になり、ガードル 1 をウェスト部に密着して装用することができる。

【0016】

また、下着本体としてのガードル 1 の背面中央線 M 上には、ゴム入紐 13 を配設することによりガードル 1 の後身頃 B 自体は身丈方向（縦方向 X）に伸縮可能に予めギャザー 14 が形成されて身丈がコンパクトに縮小化され、装用時にはガードル 1 の身丈がゴム入紐 13 の縮力に抗して丁度良く伸びて装用が行われるよ

うに調整される。15はガードル1のウェスト部に位置する開口16の内側縁に縫着されたゴムバンドであり、また、17は前記レッグ・ホール2,2の内側縁に縫着されたゴムバンドである。

【0017】

本考案の補正下着の一実施形態は以上の構成からなり、使用者はガードル1の左右下方に設けたレッグ・ホール2,2に両肢を挿入することによりガードル1を下肢に装用する。

この際、ガードル1は、図2に示すように背面中央線M上に、ゴム入紐13を配設することにより後身頃B自体が身丈方向に伸縮可能に予めギャザー14が形成されているので、使用者がガードル1を装用する場合に、ガードル1は身丈がゴム入紐13の縮力に抗して伸びるため、装用時にガードル1がダブつくことなく使用者の身体に密着して装用することができる。

【0018】

そして、ガードル1の前身頃Fの略中央に腹部3から股間4に到るまで表面にレース地5等の表装布が覆われた縦長の不伸縮布6を配設しているので、この不伸縮布6が使用者の腹部3、下腹等に密接してあてがわれて押付けられることにより使用者の体形は引き締められて補正される点は従来のガードルと同様の作用である。

【0019】

しかしながら、本実施形態では、ガードル1の前身頃Fの略中央に配設した縦長の不伸縮布6の左右に脇腹7,7から背部のヒップ部8にわたり略縦状の脇腹引締部9A,9Aと、背面の全体形状が略U字形のヒップ・アップ部9B,9Bとを、縦方向Xに伸縮性を発揮する第1伸縮布素材10Aと、該第1伸縮布素材10Aの編組織または織組織に対し任意傾斜角度 θ 、好適には $30 \sim 60^\circ$ 、さらに好適には例えば図3に示すように 45° にて編組織または織組織が重ね合わされ、三角形a,b,cにおいてその $\sin \theta$ の伸縮力を第1伸縮布素材10Aに付加する第2伸縮布素材10Bを重ね合わせたことにより、全体的に縦方向Xの合力として伸縮力を発揮する身丈伸縮形態布10により形成しているので、使用者がガードル1を装用した場合に第1伸縮布素材10Aが発揮する縦方向Xの伸縮

力と該第1伸縮布素材10Aの編組織または織組織に対し例えば図3に示すように略45度の傾斜角度 θ にて編組織または織組織が重ね合わされて三角形a,b,cにおいて $\sin 45^\circ$ の伸縮力を第1伸縮布素材10Aに付加する第2伸縮布素材10Bとが協同して全体的には縦方向Xの伸縮力を発揮するため、ガードル1は使用者の体形にダブつきなく密着されて装用することができ、特に略縦状をなす脇腹引締部9A,9Aによりウェスト周りの脇腹7,7を十分な引締力により引締めるため、体形補正は確実になる。

【0020】

しかも、身丈伸縮形態布10は、前述のように、縦方向Xに主に伸縮性を発揮する第1伸縮布素材10Aと、該第1伸縮布素材10Aの編組織または織組織に対し略45度の傾斜角度 θ に第2伸縮布素材10Bの編組織または織組織を重ね合わせて形成されるので、使用者がガードル1の装用時に運動をすると、第1伸縮布素材10Aが縦方向Xに発揮する伸縮力と、この第1伸縮布素材10Aの編組織または織組織に対し略45度の傾斜角度 θ にて編組織または織組織が重ね合わされた第2伸縮布素材10Bが発揮する三角形a,b,cにおいて $\sin \theta$ の伸縮力が第1伸縮布素材10Aの伸縮力に付加され、縦方向Xには合力としての伸縮力が発揮されるため、ガードル1は使用者の身体に密着し、使用者のウェスト部における旋回動作や捻回動作に追従して十分な伸縮性を発揮するため、運動性に優れ、機能的になる。

【0021】

また、身丈伸縮形態布10は、後身頃Bにおいて使用者の背部のヒップ部8にわたり背面の全体形状が略U字形のヒップ・アップ部9Bを縦方向Xに主に伸縮性を発揮する第1伸縮布素材10Aと、該第1伸縮布素材10Aの編組織または織組織に対し略45度の傾斜角度 θ に編組織または織組織を重ね合わせた第2伸縮布素材10Bとにより形成されるので、同様にヒップ・アップ部9Bの第2伸縮布素材10Bが発揮する三角形a,b,cにおいて $\sin \theta$ の伸縮力が第1伸縮布素材10Aの伸縮力に付加され、縦方向Xには合力としての伸縮力が発揮されることによりヒップ・アップが確実にはかれ、体形補正が行われる。

【0022】

また、ガードル1の背部上縁には、身丈伸縮形態布10に対して横方向Yに伸縮可能な2枚の身幅伸縮素布12A,12Bを表裏に重合した身幅伸縮布12を配設しているので、使用者がガードル1を装用する場合に、ウェストが太いか細いかのサイズに適合してガードル1は身幅方向に伸縮可能になり、ガードル1をウェスト部に密着して装用することができる。

【0023】

また、上記実施形態では、補正下着としてガードル1について代表的に説明したが、補正下着1はこれに限ることなく、例えばガードル部とウェスト・ニッパ一部と、ブラジャー部とが一体に形成されるボディ・スーツ等の補正下着、下着、生理ショーツについても本考案に適用することができる。

【0024】

【考案の効果】

本考案の請求項1に記載の考案は以上のように、両肢を挿入するレッグ・ホールを下着本体の左右下方に設けて下肢に装用する補正下着において、下着本体が、前身頃の略中央に腹部から股間に到るまで縦長に配設され、表面にはレース地等の表装布が覆われた不伸縮布と、該不伸縮布の左右に脇腹から背部のヒップ部にわたり配設され、略縦状をなす脇腹引締部および背面の全体形状が略U字形のヒップ・アップ部を形成し、且つ縦方向に伸縮性を発揮する第1伸縮布素材並びに該第1伸縮布素材の編組織または織組織に対し任意傾斜角度 θ にて編組織または織組織が重ね合わされることにより、その $\sin \theta$ の伸縮力を第1伸縮布素材の伸縮力に付加する第2伸縮布素材よりなるとともに全体的に縦方向の合力として伸縮力を発揮する身丈伸縮形態布とを備え、また、本考案の請求項2に記載の考案は、請求項1において、身丈伸縮形態布は、第1伸縮布素材の編組織または織組織に対し背面中央線を境に左右に後身頃から前身頃に向かって左上がりまたは右上がりに編組織または織組織の傾斜角度 θ が $30 \sim 60^\circ$ であり、その $\sin \theta$ の伸縮力を第1伸縮布素材に付加する第2伸縮布素材を重ね合わせて形成されることを特徴とし、また、本考案の請求項5に記載の考案は、請求項1,2,3または4において、下着本体が、ガードル、ボディースーツ等の補正下着、下着、または生理ショーツの何れかであることを特徴とするので、例えば、脇腹に付い

た贅肉を引き締めたり、また、ヒップ・アップをはかるという締付力を要する肝心な部所での伸縮力が充分に発揮され、体形の補正が確実に行え、また、装用時の装着感が違和感なく密着して良好であり、しかも、縫着作業が容易で生産効率がよく、組立費および生産効率が高く生産コストが安価になる。

【 0 0 2 5 】

また、本考案の請求項 3 に記載の考案は、請求項 1 または 2 において、下着本体の背部上縁には、身丈伸縮形態布に対して横方向に伸縮可能な 2 枚の身幅伸縮素布を表裏に重合した身幅伸縮布を配設することを特徴とするので、使用者がガードルを装用する場合に、ウェストが太いか細いかのサイズに適合してガードルは身幅方向に伸縮可能になり、ガードルをウェスト部に密着して装用することができる。

【 0 0 2 6 】

また、本考案の請求項 4 に記載の考案は、請求項 1, 2 または 3 において、下着本体の背面中央線上に、ゴム入紐を配設することにより下着本体の後身頃自体が身丈方向に伸縮可能に予めギャザーを形成したことを特徴とするので、使用者がガードルを装用する場合に、ガードルは身丈がゴム入紐の縮力に抗して伸びるため、装用時にガードルがダブつくことなく使用者の身体に密着して装用することができる。